

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二一—一九九九）のことばを掲載いたします。

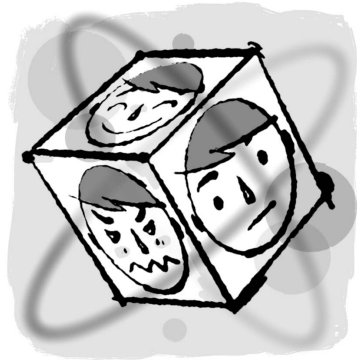
「ケチだなア。人に奢ったこともなく、祝儀や香典なんかも並はずれて少ないんだ。へんなやつ」と言われていたある人が、年をとってから、それまでケチケチとためてきた大金を、ポンと福祉施設に寄付をした。そして自分は清貧の暮らしを続けている。

何でもハイハイと受けるので、「とてもスナオだ」と思われている人が、あるときには、とんでもない強情ぶりを発揮してテコでも動かず、皆を困らせた。

短所の裏には長所があり、美点の裏には欠点もひそむ。ずるい人が、案外正直であったり、正直な人が案外頑固で、融通がきかず、迷惑をかけることもある。建て前はこうだと一面的にはつきりしているようで、本音は全く別のことを考えていたりする。

たんに性格上の面だけではなく、善悪の面についても、健康不健康の面についても、長い間にはさまざまな変化をみせたりしていったい、どれが本当なのかと戸惑わせる。そこに現われている面、隠されている面、表の面も、裏の面も、それぞれすべて、事実であり、本当なのである。だからただ一面だけを見て、それが全面と解しては誤りである。

これらは他人事ではない。いわゆる倫理的でない面も多々あるであろう。喜んで働



## 多面的だから面白い

丸山竹秋

こうとしていても、つい怠けたり、気をぬいたりする。しかし反省をして、まじめに働きます。愛したかと思うと憎んだり、また反省をして穏やかになったり……、非倫理的な面も多いが、倫理的なところもある……といった具合ではないか。

人生は思うようになる面もあるが、思うようにならない面もある。思うようになってきたときは、愉快であるが、しかしそれは一面で、他の面を無視するのは誤りだ。ある人は言った。「なかなか思うようにならないことが面白い」と。

思う通りにならないと、不愉快であり、ゆううつにもなり、また悲しんだり、怒ったりするのであるが、人生の多面性をみるとき、その思うようにならない面があることも、また面白いのではないか。勝負事では思うようにならず負けることもあるが、そこにこそ広い意味の面白味もあるのである。勝つてばかりいては、勝負事の面白味は全くなくなってしまう。

広く人生全般にわたって成功ばかりしていたのでは面白くはない。失敗するかもしれないと用心し、またついに失敗したという時点で、「しまった」「これではいけない」などと反省し、緊張を新たにすることを繰り返す。ドラマを見て、すべてが面白いのだ。人生はまさにそのドラマだ。多面的なのだ。だから人生は高く大きく、味わい深く面白のである。

『あなたは生命の元を見つけたか』より